

## 薬による有害事象を軽減するための取り組み



令和 5 年 11 月 19 日（日）から 11 月 25 日（土）は医療安全推進週間です。

薬による有害事象を軽減するために、入院時に常用薬を確認すると共に、服薬状況や有害事象の発生が無いかを適宜確認し、薬の適正使用に努めております。退院時に薬の説明書をお渡しし、調整内容などについてご説明していますが、分からないことがありましたら薬剤師にご質問ください。

薬による有害事象を軽減するための薬剤師の取り組みについてご紹介します。



### 服用中の薬剤を確認

入院中の治療や入院生活に係る計画に備え、お薬手帳や紹介状等から服用中の薬剤を確認しています。

また、院内の入退院支援部門や院外施設（かかりつけ薬局や医療機関など）と連携し、薬物療法に係る情報（服薬状況、副作用、理解度、減薬意向など）を収集しています。



### 総合的な評価

面談や問診票、薬物療法に係る情報を通じて、服薬情報や副作用、身体機能などを確認し、不明な点がある場合は、処方医療機関やかかりつけ薬局に問い合わせを行っています。

バイタルサイン、検査値、腎機能、栄養状態、生活環境、薬の選択嗜好、服薬管理状況などを総合的に評価し、入院後の服薬計画を医師等に提案し多職種と情報共有しています。



全ての薬は「主作用」と「副作用」を併せ持っており、自分に合った薬を正しく使うことで副作用の危険を減らすことができます。しかし、1つずつでは問題ない薬でも、組み合わせによって良くない影響が出る場合があります。



くすりの効き目が、  
強くなりすぎたり、弱くなったりする

## 処方見直しの検討

使用薬や全身状態を総合的に評価し、処方内容についてより良い薬物治療がないか見直しています。

薬剤の中止や変更に伴い懸念される症状を鑑みながら、薬物療法以外（生活習慣の改善・環境調整・ケアの工夫等）についても検討します。

減薬スケジュールや処方変更する際の留意事項を多職種で共有し、処方見直し後の状況や経過を確認し、ご本人やご家族と情報共有しています。



入院中

## 退院薬の説明、他施設との情報共有

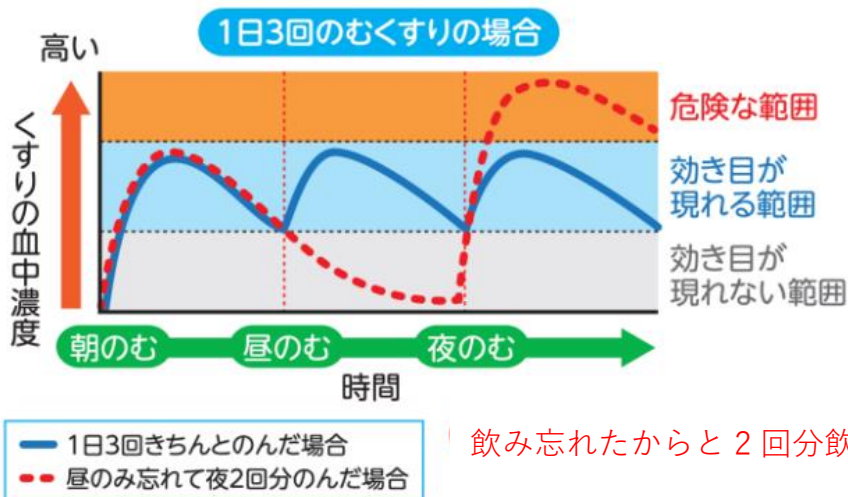
退院時に処方されている薬の説明書をお渡しし、入院中の処方変更や中止の内容、注意すべき副作用などをご本人やご家族に説明しています。

また退院後も適切な薬物療法が継続できるように、必要事項をお薬手帳に記載し、保険薬局や転院先の医療機関などへの情報提供も行っています。



退院時

薬の効き目は薬の血中濃度（血液中に溶けている薬の濃度）と関係し、適切な血中濃度（図の効き目が現れる範囲）になるよう用法・用量が決められています。薬の袋や説明書に従って、使用量や使用方法を守りましょう。



飲み忘れたからと2回分飲むのは危険です！